

令和7年度の学校評価

前年度の重点目標	ア 生徒指導の充実		
	・学校教育のあらゆる場面を通じて、自己指導能力の育成を図り、生徒一人一人の自律を促す。 「支える」生徒支援実践、生徒主体による校則見直し、「対話」を重視した最適解の探究、自己存在感・自己有用感・自己肯定感の育成		
	・集会や団体行動の指導を通して、社会における規律やマナーを重んじる生徒を育成する。いじめを許さず、人権意識を高める指導を行う。		
	イ 学習指導の充実		
	・主体的・協働的に学ぶ態度を醸成し、生涯にわたり自ら学ぶSelf Learner育成を目指す。 生徒の主体性を促す指導方法の研究 → 生徒が選択する、自分で選ぶ場面の創出、振り返り活用		
	・「教え込み」から脱却し、「コーチング」技術を通して生徒に寄り添う指導の習得を図る。 基礎学力育成と主体的・探究的な学習やPBLのバランスの検討		
	・BYOD導入方法の具体的な検討、ICT活用の工夫・発展的活用の研究を進める。		
	ウ キャリア教育と進路指導の充実		
	・総合推進部を中心として、教育課程、系列の見直しを進め、本校総合学科のセカンドステージを模索する。		
	・推薦入試制度の有効活用も含め、進路指導全般についての見直しを図る。		
エ 生徒会活動及び地域連携の充実			
・生徒が主体的に取り組む生徒会活動の展開を目指す。 生徒が中心となって活動する場面を拡大し、教師主導から生徒活動の見守りへ			
・地域移行を念頭に置いた部活動運営を模索し、持続可能な部活動の在り方を検討する。			
・生徒の探究的な学びやPBL実践のために、地域で活躍する外部講師を積極的に活用し、地域連携を推進するとともに、本校教育活動の一層の充実を図る。			
オ 働き方改革の推進			
・働き方改革ロードマップをもとに、具体的かつ効果的な改革を検討し実行する。			
カ 教職員の多忙化解消への取組・勤務時間の適正な管理			
・愛知県立学校の教職員の業務量の適切な管理等に関する規則・方針に基づき、在校等時間を客観的に把握し時間外在校等時間の上限（１か月45時間、１年360時間）が遵守できるよう業務改善・分担の見直しを行う。			
項目(担当)	重点目標	具体的方策	結果と課題
総務部	・PTAの主体的活動のあり方の検討 ・防災に関わる施設・設備の改善および環境整備	・PTA専門委員会における活動内容を見直す。 ・PTA諸行事をとおして、保護者が積極的に活動参加できるための方策を検討する。 ・防災に関連する施設・設備の改善を検討し、生徒に関わる防災環境の整備を推進する。	・各専門委員会では、改善点を考察した結果が着実に活動内容へ反映されている。研修委員会では有松絞りについて研修を実施した。毎年多様な体験活動を実施するよう努めることができている。広報委員会ではPTA会報などのデータ化を進めることができ、原稿提出も円滑に行われた。生徒指導委員会ではPTA役員・理事の希望者が参加し、ルールメイキングの検討会において生徒と共に意見を述べ合うことができた。進路指導委員会では時期を変更し、夏季休業中に1・2年の保護者を対象として進路講演会を実施した。保健厚生委員会では学校保健委員会における講演をスクールカウンセラーに依頼し、実施することができた。いずれの委員会においてもPTA役員・理事共に積極的な活動に賛助していた。今後も継続していきたい。 ・防災に関する施設・設備については知立市との連携により夏季休業中に確認することができた。また、校内の避難経路にかかわる公共スペースについて器具などが経路を塞ぐことがないように確認をすすめることができた。器具の収納先を確保するよう、倉庫等の整理を進めることができた。 ・非常食の保管場所についても整理を行い、年度毎に入れ替えが円滑に実施できるように配置することができた。 ・今後は生徒の防災への意識付けを中心とした取組の機会を増やし、充実を図りたい。
教務部	・観点別学習状況の評価の充実 ・教務内の業務改善	・校内研修等の充実を図る。 ・考査や時間割や選択科目等における細かなルールを見直す。	・観点別だけでなく最終評価についても明確にし、科会内で話題とさせてもらった。シミュレートを行い、現実的なルールを設定することで、先生方の理解をさらに深めた。 ・細かなルールを見直し、全職員に周知・徹底のために文章化することができた。また、２期制に向けて、コミュニケーションを大事にし、変更すべき内容を明確にして年間行事を作成することができた。次年度は、さらに良い学校となるために行事も見直していきたい。
生徒指導部	・生徒の基本的生活習慣の確立 ・社会における規律やマナーを重んじる生徒の育成 ・校則・行事の見直し	・全校体制で、身だしなみ指導・遅刻指導、挨拶運動等に取り組む。 ・様々な機会をとらえ、心の教育の実践を行う。 ・現在に必要とされる校則を考え、校則で生徒一人一人の成長を促せるようにする。	・今年度は、年度途中に、制服の規定を変更したこともあり、規定を守れない生徒が少数でしまった。登下校時の服装について今後は検討していく必要を感じた。遅刻数は３年連続で減少した。 ・多くの生徒は規律やマナーを意識できている。少数ではあるが、「自分さえ良ければいい」「自分に損がなければいい」という思考の生徒もいるため、指導の機会を逃さないようにしていきたい。指導する機会をチャンスと思える環境を作っていきたい。 ・夏季期間中の制服の選択肢を増加した。また、カーディガンは全生徒が着用できるようにした。変更に対して否定的な意見は今の所ほとんどない。今後も必要な部分の校則の見直しを継続していく。
生徒会部	・他人を尊重する態度の育成 ・生徒主体の行事促進	・部活動を通して技術、マナーの向上、安全に協力し合う集団を作る。 ・執行部を中心に、生徒の主体的な取り組みを行う。	・部活動を通して、集団としてのどう行動すれば良いか考えて行動することができた。 ・部活動の定着率が年によって大きく違う。積極的に参加させるかという課題がある。 ・生徒会執行部や生徒が主体となり、学校祭や赤い羽根共同募金などの学校行事に取り組むことができた。生徒議会を開催しクラスの意見を聴き活動に活かすことができた。

項目 (担当)	重 点 目 標	具 体 的 方 策	結 果 と 課 題
進路指導部	・明確な進路意識を基盤にした学習習慣の確立 ・多方面においてより高い目標を持たせる進路指導の推進	・進路実現に向けた基礎学力を身につけさせる。 ・多様な進路目標実現に向けた進路指導を充実させる。 ・社会で必要とされるモラルやマナーを身につけさせる。	・進路目標の実現に向けて、就職ガイダンスや進学補習、学習会、模擬試験を計画的に実施することにより基礎学力の向上や就職試験、大学入試に対応するための基礎学力育成することができた。 ・進学補習の受講者が減少したため、補習の実施方法や内容を見直す必要がある。 ・各学年、各教科と連携して、進路ガイダンス等の行事を実施し進路に対する意識を高めたり、進路検討会を行うことにより、多様な進路希望に対応するための具体的な進路指導を行うことができた。 ・進路講演会の時期を見直したことにより、系列選択前に保護者向けに話をすることができた。 ・就職担当者による就職ガイダンスの中で、社会人として必要なマナーやモラルを学ばせることができた。
保健部	・自発的な学習生活環境の整備 ・生徒の心身の健康維持 ・相談活動における各種機関との連携 ・生徒に関する情報の共有化	・清掃活動、紙資源の回収を展開する。 ・健康診断の事後指導の充実を図る。 ・特別支援教育と教育相談を充実する。 ・保護者やSC、外部機関との連携の在り方を考察する。 ・生徒情報共有フォルダを作成し情報の共有化を図る。 ・教育相談委員会の充実を図る。 ・保健室との連携を図る。	・毎日の清掃を熱心に行う生徒が多く、この意識を今後も継続させていきたい。そのためにも、清掃用品の不足を防ぐため、清掃器具庫の点検をこまめに行う必要がある。 ・生徒への受診勧告や健康相談への対応は、概ね順調に行うことができた。また、養護教諭や保健部の職員だけでなく、職員全体で生徒の健康管理を行うという意識が共有できている。 ・個別の支援計画のある生徒については、日常の様子をこまめに把握するとともに、本人・保護者・保健部職員による面談を年2回実施した。 ・スクールカウンセリングが必要、または効果が期待できる生徒に対する働きかけを工夫していきたい。そのため、学年との連携もさらに充実させていきたい。 ・生徒の情報共有データについては、小さな事案であっても入力することで、学校全体で情報を共有し、生徒支援につなげていきたい。一方で、情報の取り扱いには細心の注意を払う必要がある。それらを教育相談委員会での、よりよい話し合いにつなげていきたい。 ・保健室来室生徒の状況についても、こまめに学年と共有していきたい。
教育情報部	・来館者数増加の達成 ・情報機器の整備	・移動図書館の実施 ・図書館の多機能化 ・プロジェクト等の整備 ・次年度に向けての準備	・昇降口や中庭に向向き、本の展示や貸し出し、雑誌やポスターの払い出しなどを行い図書館や本に興味を持ってもらうことができた。寒い時期や暑い時期は生徒がなかなか教室から出てこないため、こちらから教室に向向くことも検討していきたい。 ・当初予定していた内容はすべて実施することはできなかったが、保護者会での待合室にしたり、企画を行うなど少しずつではあるが、図書室をできるだけ開放することができた。 ・プロジェクトが故障していたCALL教室に新たに導入することができた。また、電子黒板などが導入され、教員に向けての研修も行うことができた。 ・次年度に向けて推奨されるタブレット等について、時間の短い中でTeams等を活用して広く意見を収集することができた。
総合推進	・広報活動 ・「産業社会と人間」と「総合的な探究の時間」の充実	・体験入学・学校説明会の実施 ・ホームページの充実 ・教育課程や系列の充実 ・総合学科発表会の実施	・夏の中学生体験入学と秋の学校説明会を在校生の発表を中心に実施し、本校の魅力を中学生やその保護者に伝えることができた。 ・学校内での活動を校外に発信するようにホームページ更新などを心掛けた。 ・教育課程の見直しに向け、コース制導入を検討し、各教科を中心に協議を進めたが、現時点では現状のまが良くないと判断した。 ・「総合的な探究の時間」の発表を全校生徒及び体験入学や学校説明会参加の中学生に対して行った。
第1学年	・基本的生活習慣の確立と集団生活における規律の遵守 ・人権を尊重する態度の育成 ・予習復習など家庭学習を基盤にした学習習慣の確立	・挨拶の励行と、TP0に合わせた身だしなみを自らできるように指導する。 ・学校の教育活動全体を通じて人権について多面的・多角的に考え、多様性を尊重する態度を育成する。 ・学習方法の指導、効果的な課題、小テストを実施する。	・生徒からTP0に合わせて自発的に自然な挨拶ができるよう声をかける。身だしなみ指導では高校から社会のつながりを考えて指導を行い、ゆくゆくの入試や入社試験に対応していけるよう声掛けを行った。多くの生徒が明るく元気に挨拶を返してようになったが全員に浸透していないところは課題である。 ・友人やクラスメートを大切にすることを身に付けさせられるようことあるごとに声掛けを行った。また教科指導やクラス経営の中でもお互いに会話を取れる機会を設けて、仲を深め、相手を尊重する態度を育成した。 ・小テストにおいては事前から声掛けを行い学習へ向かう態度の育成を図った。また、できたやできない内容をフィードバックすることで次に生かす指導を行った。テスト時には全体的にも声掛けを行い、全体で取り組む雰囲気づくりを行った。ただ勉強する姿勢の定着には課題が残った。
第2学年	・意識・行動の向上 ・基礎学力の定着と向上 ・進路意識の向上	・集会や面談等を通じて、生徒に自分たちが集団の中心的立場であることを自覚させる。 ・辞書、参考書等を使って自ら学ぶ姿勢を育てる。 ・進路指導を充実する。	・各種集会や校外での修学旅行において時間厳守を心がけた姿が見られた。学校祭では行事を盛り上げようとする姿勢が随所に見られ、やり切ることができた。生徒会役員選挙では、2学年からの立候補が多数あり学校の中心的立場としての自覚が芽生えてきたように感じている。他にも全体として学校のために、人のためにとと思われる行動が増え、行動に変容が現れてきたと感じる。 ・学習難易度が上がってくる中で、家庭学習を通して基礎学力の定着を図ってきた。各教科では、小テストの実施や学習支援アプリを活用した課題配信をするなど工夫を凝らし、学習習慣の確立ができるような指導を心がけた。更なる主体的な活動を促し、進路実現に向けて地道に努力する姿勢を定着させたい。 ・3年次の科目選択では説明会や担任面談等を丁寧に実施し、生徒の進路希望に即した決定ができるように促した。進路探究や外部講師による進路希望別のガイダンス等を行い、進路について考えられる機会を設け、意識の向上に務めた。夏季休業中課題として、オープンキャンパスに参加するように促し、多くの生徒が行動に移すことができていた。

項目 (担当)	重 点 目 標	具 体 的 方 策	結 果 と 課 題
第3学年	・進路目標の実現 ・自ら考えて行動する力の育成	・系列の特性に合わせた指導をする。 ・就職指導と進学者向け学習会、補習を充実する。 ・自ら問いを立て、解決方法を探索して主体的に行動する力を育成する。	・生徒面談を重ね、個々の進路を把握し、担任が中心となって入試や就職試験の情報を共有し合い、各系列の特性に合わせた指導を行った。 ・学校説明会等に出向き、最新情報を職員間で共有を図った。入試問題・模擬問題の研究を行い対応できるよう心がけた。また、就職者向けのマナー指導、面接指導を充実させ、生徒の志望する進路実現ができるよう心がけた。 ・学校祭では、最善の結果が残せるよう仲間同士で課題に向き合った。他にも総合的な探究の時間で生徒主体で活動できる場面を設けた。その結果、多くの生徒がテーマ決めから研究内容、発表に至るまで、自ら考えて行動・探究することができていた。
学校関係者評価を実施した主な評価項目		・基本的生活習慣の確立 ・キャリア教育の充実	・規範意識の向上 ・地域連携の推進 ・学習指導の充実 ・いじめ防止の取組 ・進路指導の充実 ・勤務時間の管理
自己評価結果について		・身だしなみ指導、遅刻指導、あいさつ運動などを組織的に行い、基本的生活習慣の確立を図ることができた。 ・生徒指導部を中心に、ルールメイキングの研修会を実施し、生徒・保護者が意見表明することができる場面を創出した。 ・授業研究週間を年間2回設定し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた教科指導力の向上や授業改善を図った。 ・考査や学校行事等のあり方を見直し働き方改革を推進するため、次年度、二期制に移行することにした。	
今後の改善方策について		・生徒、保護者が積極的にかかわるルールメイキングの活動を継続していく。 ・二期制を実施していく中で出てきた課題に対し、適切に対応する。 ・修学旅行を含めた学校行事等の見直しをさらに進める。	
その他（学校関係者評価委員から出された主な意見や要望）		・適切に学校運営がなされている。 ・二期生実施に伴う諸課題に対し、適切に対応してほしい。	
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期		・構成：地元経済界代表、地域代表、地元中学校長、PTA役員 ・評価時期：令和8年3月	

経営管理上の問題点等

ア 施設・設備の改善

教室、廊下の設備・施設の老朽化が著しく補修の必要がある。特に、蛍光灯は計画的にLED化する必要がある。

イ 組織・運営関係の改善

職員の年齢構成に偏りがあり、中堅教諭が不足している。そのため、初任者に十分な指導をする体制が不十分であるため、より組織的に研修を行う必要がある。